

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	山下 穂乃佳	学校名	松戸市立上本郷第二小学校
実施学年	6年	教科	算数
単元名	比例と反比例		

《学びを深めたいポイント》

① 学習方法の工夫(個に応じた単元全体を見通した計画づくり)

単元導入時に学習内容と到達目標を具体的に示し、児童が見通しをもって自ら学習計画を立てられるようにした。手段や内容を選択することで学びを自分事として捉え、主体的に課題に向かう姿を目指した。ICTを活用し他者参照しやすい環境を整えることで、考えを比較・検討し、より深められるようにした。

② 多くの情報を得ることができ場の設定

多様な情報に触れることは、児童が複数の視点から考える力を育てると考えた。本時では SKYMENU を活用し、友だちや他クラスの考えを参照できる環境を整え、自分の考えを広げたり見直したりできるようにした。

③ 伝え合う時間の確保

児童が自由に友だちの考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりできるよう支援した。交流するごとに貯まるポイント制を導入することで、楽しく伝え合い活動ができるようにした。

《SKYMENU 活用のポイント》

① 発表ノートにより、自分の考えを形成する。

子どもたちは自分の考えを発表ノート上で整理していくことで、思考の過程を明確にしながら考えを形成することができた。また、文章や図、写真等も容易に挿入できるため、多様な方法で自分の考えをまとめる姿が見られた。

② グループワーク機能の活用により他者参照、協働を実現する。

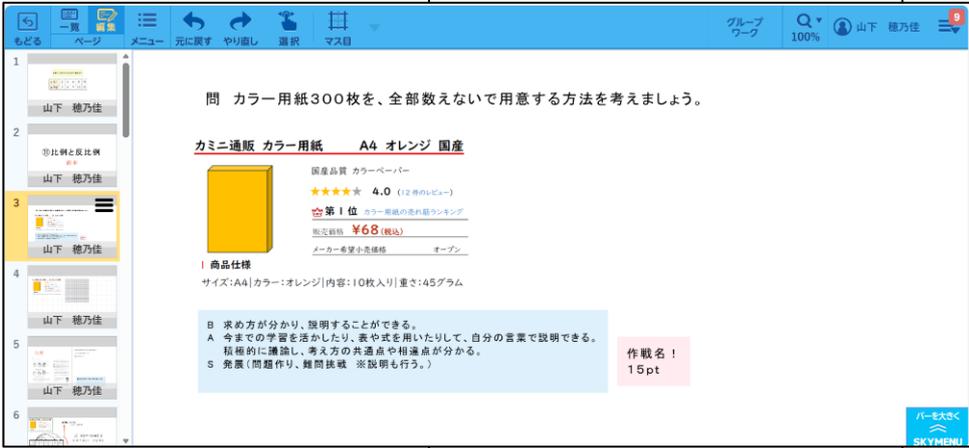
互いのノートを共有し合うことで他者の考えを参照し、自分の考えと比較・検討する場面が生まれた。また、友だちの意見から新たな視点に気づき、自分の考えを修正・深化させる姿も見られた。これにより、学びが個にとどまらず、協働的な学びへと広がった。

③ 気づきメモを活用した学びの可視化と交流の活性化

気づきメモの活用により、子どもたちの多岐にわたる学習状況を教師が把握できるだけでなく、子ども同士が互いの活動を共有できた。メモを通して友だちの活動内容を知ること、「この人と話してみたい」「この考えをもっと聞いてみたい」といった思いが生まれ、交流する相手を主体的に選ぶ姿が見られた。その結果、自然で活発な話し合いのきっかけとなり、協働的な学びの充実につながった。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	素材を確認する。 問題 カラー用紙300枚を、全部数えないで用意する方法を考えましょう。	○見通しをもって取り組めるように、単元の最初に発表ノートを配付しておく。	○発表ノートを配付することで、単元のゴールを児童が意識して学習を進めることができる。

			
	<p>2 学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 提示された素材と目標から、自分の学習計画を立てて振り返りシートに入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を開始して、グループワークに参加する。 他クラス、昨年度の6年生の発表ノートも持ちこみ、共有する。 	<p>○グループワークの機能を活用することで、他クラスの児童や昨年度の6年生の発表ノートを持ち込むことができる。</p>
展 開	<p>3 自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 素材から必要な情報を読み取る。 友だちの発表ノートを見たり、教科書を見たりして取り組む。 自分の考えを要約した作戦名をつける。 <p>4 自分の考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 友だちからアドバイスをもらったり、友だちの説明を聞いたりすることで、自分の考えを深める。 <p>※時間の区切りは設けず、児童が活動内容を随時選択できるようにする。</p> <p>(5 発展学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> 重さや厚さ以外に枚数と伴って変化するものを考え、説明する。 数や場面を変えて同じ考えが生かせるか試して、説明する。 発展問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表ノートに自分の考えをまとめる。 自分で考える時間を確保するだけでなく、グループワーク内の他の人のノートを見ながら、自分の考えを深めることができるようにする。 子どもによって活動内容が多岐にわたるため、定期的に気づきメモに、何をしているか入力させる。 	<p>○発表ノートを活用することで、児童は図や表、写真等を活用し効率的に、分かりやすく自分の考えをまとめることができる。</p> <p>○グループワーク機能を活用することで、児童同士で、素材をコピーして活用したり、お互いのノートに書き込みをしたりして、学びを深めることができる。</p> <p>○気づきメモに活動内容を入力することで、教師が児童の活動内容を把握するだけでなく、児童同士で協働の相手を探すきっかけとなる。</p>
ま と め	<p>6 振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、Excel に入力する。 		

《実践を振り返って》

本実践では、単元全体を見通した学習計画のもと、SKYMENU の各機能を効果的に組み合わせることで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現を目指した。発表ノートの活用により、児童は自分の考えをまとめることができた。また、グループワーク機能や気づきメモを通して他者の考えや活動状況を把握できる環境を整えたことで、児童が主体的に交流相手を選び、学びを深めようとする姿が見られた。友だちのノートを参照し、自分との違いや共通点を見つながら思考を修正・発展させる姿から、ICT が思考を支える道具として機能していることを実感した。